

# WATER REVIEW 2022 FROM KUMAMOTO

第4回 アジア・太平洋水サミット 開会式

2022年4月23日(土)

日本水道新聞社  
HPで無料配信

## 世界の平和と繁栄 導く議論を



地元の高校生、片山さんと梅崎さん(左から)がサミット開始を宣言



開会式では天皇陛下がオンラインでおことばを述べられた

### 岸田首相 「水問題を牽引する責務、行動を加速させていく使命、踏み出す好機」

第4回アジア・太平洋水サミットが4月23日、熊本市・熊本城ホールで幕を開けた。

開会式には、アジア・太平洋地域の首脳級および水の関係者が約700人が参集。天皇皇后両陛下がオンラインで出席された。

主催者であるアジア・太平洋水フォーラム会長で第4回アジア・太平洋水サミット合同実行委員会委員長を務める森喜朗元首相の開会あいさつに続き、天皇陛下がおことばを述べられた。

天皇陛下は、国際的な感染症の流行の中で水と衛生を「健康の礎」と述べられ、水問題の解決が国連・持続可能な開発目標(SDGs)の多様な課題の解決に関連していることに触れながら、サミットの成果が幸福と平和の一步となることを願われた。

サミットには開催国・日本の岸田文雄首相をはじめ、カンボジア、ツバル、ラオス、ウズベキスタンの首脳級が参会で出席。

開会式のあいさつに立った岸田文雄首相は「水を治めるものは国を治める。水を治めることは地球規模の社会課題を解決することに大きく貢献する」と水問題解決における政治のリーダーシップの重要性を強調。「質の高い社会」

をキーワードの一つに挙げ「レジリエントで持続可能な開発を促進するため、水問題を牽引する責務がある。開催国の首相として、サミットに臨むにあたり、行動をよりいっそう加速させる使命を強く感じている」とし、サミットを「大きく踏み出す好機」と述べた。

また「きれいで安全に処理された水を手洗いに当たり前のように利用できるありがたさを実感している」とし、水インフラの恩恵に触れた。

また、開催都市を代表し、大西一史熊本市長があいさつ。熊本の地下水保全、流域治水への取り組みを紹介し、参加者に歓迎の意を示すとともに、熊本地震の災害に寄せられた支援に対する感謝を述べ、「サミットを開催できることは光栄。世界の水の未来の希望の道筋になることを確信する」と成果に期待を寄せた。

サミットでは、首脳級会合において「熊本宣言」を採択するとともに、議論の成果として議長サマリーをまとめる。これらの成果は、来年予定されている「国連2023水会議」に反映していくことなどから、国連のアントニオ・グテーレス事務総長がビデオメッセージを寄せた。

サミットの議論のベースとなるアジア・太

平洋地域の水問題の概況がアジア・太平洋水フォーラムのマーク・パスコ執行審議会議長から共有されたのち、サミットの開催に当たり水に関するさまざまな活動を行ってきた高校生らで構成する「ユース水フォーラム・九州」のメンバーである熊本北高校3年の梅崎悠太さんと片山紗良さんがサミットの開始を英語で宣言し、参加する国・地域のリーダーに「私たちに導いてほしい」と呼びかけた。

セレモニーののち、天皇陛下による「人の心と水—信仰の中の水に触れる—」と題した記念講演を行われ、国内外の山岳信仰や蛇神・龍神の神話などを陛下が自らが訪れた際に触れたエピソードや撮影した写真を交えながら、水への信仰がアジア・太平洋地域に広がっていった過程を解説された。また、SDGsの進捗状況に触れられ、これらの達成に向けた取り組みなどを通じ「全世界の平和と繁栄につながることを心から願う」と述べられた。

開会式は、オンラインで世界に配信。この他のイベントについてもオンラインとのハイブリッドで参加できる工夫が図られ、24日まで、幅広い関係者の交流が展開される。



岸田文雄 首相



大西一史 熊本市長



森喜朗 アジア・太平洋水フォーラム会長



## 開会式 天皇陛下のおことば 全文

(実際のおことばは英文 和訳文は宮内庁ウェブサイトより)

あいさつに先立ち、2016年の熊本地震や2020年など近年の豪雨災害により、亡くなられた方々に対して哀悼の意を表しますとともに、御遺族と被災された方々を心からお見舞いいたします。災害からの復旧・復興が一日も早く進むことを願っております。

御列席の皆さま、第4回アジア・太平洋水サミットが、アジア太平洋地域はもとより、世界各国から多くの参加者を迎えて熊本市において開催され、オンラインという形で、皆さんと共に出席できることをうれしく思います。

開催地である熊本市は水に恵まれ、約74万人もの市民の水道水源の全てを地下水で賄う世界でも希有な都市です。この恵まれた資源を後世に確実に守り伝えるために、地域の住民・事業者・行政が一体となって、地下水の涵養や水環境の保全などの優れた取組みが行われてい

す。熊本地震からの復旧・復興も進んでいる中、この地で「持続可能な発展のための水～実践と継承～」をテーマとした本サミットが開催されることは大変意義深いことと思います。

水は、地球上のあらゆる生命の源であり、多くの恵みを与えてくれる一方で、時には洪水などで災害をもたらす脅威となります。また、水問題は、貧困、教育、ジェンダーなど、持続可能な開発目標(SDGs)の他の課題とも密接に関連した課題として捉えられます。

私たちは新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中で、水と衛生が健康の礎であることを改めて実感しました。また、災害の被災地や紛争地における水の確保も大きな問題であると思

います。今回のサミットでは、各国首脳が多様な水問題を解決するための構想や思考を共有し、更に

は、国際機関、政府機関、NGO、各分野の専門家など様々な人々が集い議論し、叡智をいちは結集して具体的な解決策を探り、行動に移すことが期待されています。また、会議には多くの若い人々も参加すると聞いています。アジア太平洋地域の水について考えるこのサミットに、次の世代を担う若い人々が国を越えて参加されることは大変意義深く、皆さんの活躍を楽しみにしています。

来年には国連で46年ぶりに水問題を中心に議論する会議が開催されます。今回のサミットが大きな成果を上げ、アジア太平洋地域、更には世界の水問題の解決、そして、水を通じた全世界の人々の幸福と世界の平和に向けた大きな一歩となることを心から願い、私のあいさつをいたします。

ありがとうございました。

## 天皇陛下記念講演

(講演の後半部のみ一部抜粋して掲載)

(前略)

15年前、大分県別府市で開催された第1回アジア・太平洋水サミットの基調講演で、私は、かつてネパールの山間部の共同水道で水を汲む女性や子どもたちの姿を見たことが水問題に関心を持つきっかけとなったことをご紹介しました。

蛇口を捻ればすぐ飲める水もあれば、何時間もかけて並び、山道を運んでようやく手に入る水もあるのです。そして、その風景からは人と水との関わりの中のジェンダー、健康、教育など誰一人取り残さない持続可能な開発目標・SDGsの達成に向けた課題もうつし出されてきます。

2015年に合意された国連2030年アジェンダは、このような課題に対して、アジア・太平洋地域を含む国際社会に共通の目標を提示しました。目標年まで3分の1あまりの期間が経過した現在、その進捗の遅れに関係各国連機関は警鐘を鳴らしています。

世界のすべての人々が、安全な水と基本的な

## 人の心と水ー信仰の中の水に触れるー

衛生サービスにアクセスするためには、今のペースのそれぞれ2倍の速度で施設の整備とサービスの拡充を進めなければなりません。さらに2030年までに世界のすべての人々が各家での水道水や安全に処理される個別トイレといった水・衛生サービスにアクセスするためには、今までの4倍の速度で施設の整備が図られる必要があると言われます。

一方で、洪水や干ばつなど水に関わる災害が頻発しており、気候変動の激化に伴って災害状況のさらなる悪化が懸念されているのも事実です。

熊本県でも水害からの復興が進んでいるところですが、さらに取組みを継続して、推し進める必要があるでしょうし、今後の対策も急務と考えられます。

水の不足や過剰によって起きるさまざまな問題は、人々や社会に不安や緊張をもたらします。人と水との関係をめぐる問題は、私たちが連帯して取り組まねばならない喫緊の課題となっています。

すべての人々が豊かな水の恩恵を受けて、安心して日々の暮らしを営むことが可能となり、それがやがてアジア・太平洋地域、さらには全世界の平和と繁栄につながっていくことを心から願います。

アジア・太平洋地域を含め、世界各国で水を通じた地域の協力と安定に取り組んでいる方々に心から敬意を表します。

本日、多くの例で紹介したように、水は人々の生活を支えながら、人々の心にやすらぎを与え、地域を越えた共感と連帯をもたらします。

この会議を通じて、出席されるすべての皆さんが人と水との関わりをさまざまな角度から話し合い、水をめぐる課題とその解決に向けた具体的な方向性を見だし、水に関する国際社会の共通の目標達成に向けた決意を新たに行動していけることを期待しています。

そして私も、水問題についての理解とその解決に向けての考察を深めていくことができばと思っております。

ありがとうございました。

## 開会式 岸田文雄首相 あいさつ概要

サミットに集結した私たちが、質の高い社会を作り上げていくために、人類の生存のために不可欠な水をめぐる社会課題について話し合えることは大変有意義である。

水は貧困、公衆衛生、食糧、環境、エネルギー、平和、安全保障など、さまざまな社会課題と密接な関係がある。これらすべての水をめぐる社会課題に責任を有するのは誰でしょうか？

その答えは我々各国の首脳である。「水を治める者は国を治める」という古くからの言葉がある。今や、水を治めることは地球規模の社会課題を解決することに大きく貢献する。

ここに集う我々は、このサミットを契機として一致団結して、レジリエントでそして持続可能な開発を促進するための水問題への取り組みを牽引する責務がある。

開催国の首相としてサミットに臨むに当たり、アジア太平洋地域における水問題に向けた行動を、より一層加速させる使命を強く感じている。

開催国の総理大臣としてサミットに臨むに当たり、アジア太平洋地域における水問題に向けた行動を、より一層加速させる使命を強く感じている。

### 「ユース水フォーラム・九州」メンバーによるサミット開始宣言(原文の英文を和訳)

私たちは新型コロナ禍によって先例の無い課題に直面しています。

学校生活も、そして家族や友人との関係なども完全に変わってしまいました。

しかし、それでも私たちは、勇気を持って、継続して先を見ています。

そして、現在と未来に直面するであろうあらゆる課題、困難に立ち向かっていく用意ができています。

水は、毎日の、そして真に貴重な命の源だということを私たちは知っています。

しかし、水というものは、コントロールできなくなると恐ろしい存在にもなり得ます。

私たちは大人になった自らに、そして将来出会うであろうすべての人に水を守ることの重要性を心から語りたくと思っています。

アジア・太平洋地域のリーダーの皆さま、ぜひ私たちを導いてください。